

科目ナンバー： BC1021

授業コード： 2230100200

講義科目名称： 看護援助論Ⅰ

英文科目名称： Nursing CareⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、山岸美奈子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 15時間		
	【担当教員】 【氏名】 ◎岡村 典子 norio@niigata-cn.ac.jp 山岸 美奈子 yamagisi@niigata-cn.ac.jp 実務経験のある教員が担当します。	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【研究室】 216 共同研究室5	【メールアドレス】
【大学の科目区分】 専門科目				
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程				
【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ○ ◎				

到達目標	1. 看護援助とは何かを説明できる 2. 看護援助を実践するための知識を理解しスキルを身につける 3. 看護実践能力の基盤となる対象と援助関係を形成するための知識とスキルを身につける			
授業概要	主として講義により、「看護援助とは」、「看護援助の必須条件」、「援助関係の形成過程」など、看護援助を実践するために必要な知識について学ぶ。また、講義・演習を通して、看護実践能力の基盤となる、対象と援助関係を形成するための知識・態度・方法、及びコミュニケーションの基本的スキルについて学修する。さらに、対人援助職として重要となる、自己理解・セルフケアについても学修する。			
授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 学修課題：看護援助とは 学修内容：援助・援助関係とは 看護援助の概念 事前学修：「援助とはなにか」について、今の自分の考えを記述しておく。 事後学修：看護援助について理解したことを、看護学概論の必携図書を参考に概要をまとめ記述する。 備考：岡村		
	2	授業内容 授業形態：講義 学修課題：看護援助の必須条件 学修内容：安全・安楽・自立の概念 対象者の安楽を阻害する要因、自立援助の考え方 看護者の健康管理 事前学修：基礎看護技術演習Ⅰの必携図書(系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ「D 看護技術を適切に実践するための要素」p8～p14)を読み、安全・安楽・自立について自分の考えを記述しておく。 事後学修：授業内容を振り返り、事前学修での自身の考えと比較しながら、看護の必須条件である安全・安楽・自立について理解したこと学んだことを整理し記述する。 備考：山岸		
	3	授業内容 授業形態：講義 学修課題：援助関係の形成過程 学修内容：援助関係の形成過程 事前学修：自分と他者との関係形成について振り返り、その過程をまとめる。 事後学修：援助関係の形成過程に自分の体験をあてはめ、改めて専門援助者の関わりについてまとめる。 備考：岡村		
	4	授業内容		

	授業形態：講義 学修課題：援助関係形成力とその構成要素 学修内容：援助関係形成力 援助関係形成力の構成要素（コミュニケーション能力、感情活用能力） 事前学修：コミュニケーションについて、自分の考えをまとめる。 事後学修：感情活用能力の構成要素を踏まえ、自分の傾向を振り返るとともに自己に関する理解をまとめる。 備考：岡村 5 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：コミュニケーションの基盤となるもの① 学修内容：対人関係における基本的態度 自己・相手・状況を理解する必要性 事前学修：対人関係において必要となる要素について、自分の考えをまとめる。 事後学修：対人関係における基本的態度について、説明できるようまとめる。 備考：ゲストスピーカー、岡村 6 授業内容 授業形態：講義・演習 学修課題：コミュニケーションの基盤となるもの② 学修内容：対人関係における基本的態度 自己・相手・状況を理解する必要性 事前学修：セルフケアとは、について自分の考えをまとめる。 事後学修：援助関係において、自己理解とセルフケアが必要になる旨について考察する。 備考：ゲストスピーカー、岡村 7 授業内容 授業形態：講義・演習・グループワーク 学修課題：コミュニケーション場面の再構成① 学修内容：コミュニケーション場面の振り返り 異和感の対自化 事前学修：提示された課題（コミュニケーション場面の再構成）に取り組むとともに、自分の対人関係における傾向についてまとめる。 事後学修：第4・5回の授業の学びと今回の授業も踏まえ、対人関係における基本的態度について説明できる。 備考：岡村、山岸 8 授業内容 授業形態：講義・演習・グループワーク 学修課題：コミュニケーション場面の再構成② 学修内容：コミュニケーション場面の振り返り 異和感の対自化 事前学修：提示された課題（コミュニケーション場面の再構成）に取り組むとともに、自分の対人関係における傾向についてまとめる。 事後学修：自分の対人関係における傾向と課題を明確にし、今後の取り組みをまとめる。 備考：岡村、山岸
評価方法、評価基準	到達目標1～3に対し、下記の3点にて評価する。 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。
必携図書	ハンドアウト資料を使用する。 課題学習においては自主的に文献探索を行う。
参考図書・資料等	必要時、講義時に提示する。
受講、課題、資料配布等のルール	授業は時間の中で順序立てて進めていくため、20分を超える遅刻や途中退席は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。なお、出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。 学習課題の順番は変更する場合がある。
教員からのメッセージ	看護援助、そして援助関係に関する知識を身につけるとともに、自分の対人関係における傾向や、陥りやすい感じ方、考え方について知る機会となる授業です。
オフィスアワー	時間があえばいつでも